

むかしの道 ~こみちからはじまる道~

平城京や平安京の建設では大がかりな都市計画のもと、整然とした街路網が建設されました。江戸時代になると、参勤交代の制度により、五街道をはじめ道路網が急速に発達しました。

道の歴史

道は生きている 富山和子著 講談社 1980年 並木道、塩の道、お参りの道。道の歴史を調べてみると、豊かな物語が見えてくる。

街道の旅

江戸の旅と交通 竹内誠監修 学習研究社 2003年 (入手不可) 街道を歩いて旅した江戸庶民の旅のスタイルを多くの図版と写真で紹介。

絵図に見る伊勢参り 富旅の文化研究所編 河出書房新社 2002年 「一生に一度の伊勢参り」。江戸時代の庶民の20人に1人は伊勢に詣でた。当時の絵図を解説。



東海道中膝栗毛 やじきた東海道の旅ほか 宮脇紀雄編 斎藤博之画 小峰書店 1998年 江戸時代、十返舎一九が書いたベストセラー。弥次さん、喜多さんの伊勢までのドタバタな道中を描いた物語。

街道と旅 神崎宣武著 鴫田幹絵 さ・えら書房 1988年 大名の旅、参勤交代によって街道は発達した。

おくのほそ道の旅 萩原恭男、杉田美登著 岩波書店 2002年 俳人芭蕉が半年をかけて東北から北陸、そして伊勢まで旅をした。どんな旅だったのか、著者自らが足でたどってみた。



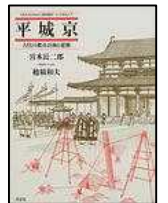
地図をつくったひと

天と地を測った男 伊能忠敬 岡崎ひでか作 高田勲画 くもん出版 2003年 忠敬が、地図をつくるために日本全国を歩いて測量をはじめたのは、56歳のときだった。

古代の都市計画

都市：ロ・マ人はどのように都市をつくったか デビッド・マコ・レイ作 西川幸治訳 岩波書店 1980年 建築家、測量技師、熟練した鍛冶屋...都市をつくる達人によって古代ローマの道は築かれた。

平城京：古代の都市計画と建築 宮本長二郎著 穂積和夫イラストレーション 草思社 1986年 まっすぐな道が碁盤の目ようになっていた平城京。道路や橋はどのように整備されたか、発掘によって再現。



江戸・東京の道

街道が発達した江戸では、橋が建設され、地図の販売も発達しました。江戸時代の末に日本にきたヨーロッパの外交官は、街道の並木道のすばらしさに驚いたそうです。明治時代に入ると日本ではじめての機関車が走り、東京駅ができます。

江戸の道

江戸の地図屋さん:販売競争の舞台裏 俵元昭著 吉川弘文館 2003年 大名屋敷や寺社・町屋をたずねるには江戸切絵図が必須だった。多くの需要があり、地図の販売競争があった。



切絵図・現代図で歩く江戸東京散歩 人文社 2002年 江戸時代と現在の地図を見開きで比較できる。加賀藩前田家の上屋敷は東京大学になっていた。

江戸の橋 鈴木理生著 三省堂 2006年 隅田川にかかる橋や日本橋の歴史。そもそも「橋」は「端」でもあり、異質文化の交流の場だったという。



玉川上水：その歴史と役割 羽村町郷土博物館編 吉川弘文館 2003年 江戸の人口が増えると、飲み水が足りなくなった。玉川兄弟は堀を掘って多摩川の水を江戸まで通す大工事を行う。

明治・大正 東京の道

東京の都市計画 越沢明著 岩波書店 1991年 大正大震災で崩壊した東京の、幻の都市計画。

東京駅歴史探見 長谷川章[ほか]著 JTB 2003年 開業前夜から現在まで、90年にわたる鉄道の起点、東京駅の歴史。珍しい写真や絵葉書を多数収録。



東京の並木道

街路樹 葉っぱの詩 群馬直美絵・文 世界文化社 2007年 外苑のイチヨウ並木、環八通りのモミジバフウ並木...著者が歩いて描いた街路樹と葉っぱが美しい。

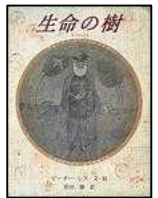
海の道・鉄道・橋 ~道を進むと~

道をどんどん進むと海に囲まれた日本では、必ず海岸へです。そこからさらに海の道に続きます。また、川があれば川を渡るために橋をかけます。海の道や鉄道も、人やものを運びます。

海の道

江戸のあかり ナタネ油の旅と都市の夜
塚本学文 ノ関圭絵 岩波書店 1990年

江戸の住民が買いいれる多くのものは大阪方面から船で運ばれたものだった。トップはお米、2位があかりに使うナタネ。



生命の樹 ピーター・シス文・絵 原田勝訳 徳間書店 2005年

ビーグル号は測量のため、南米への道を切り開く。乗船していたダーウィンは、生命の神秘に迫る偉大な科学者となる。

交易の道

海のむこうのずっとむこう 九州国立博物館企画・原案 フレーベル館 2009年

16世紀、日本の商人たちは朱印船で、めずらしい品物を求めて異国の地、今のベトナムに出かけていた。



探検・貿易 アン・ミラド編集顧問 早野依子 訳 金の星社 1998年

シルクロード、十字軍、新大陸発見の旅、海賊など、太古からの探検・貿易の歴史。

鉄道の道

山手線誕生 半世紀かけて環状線をつなげた東京の鉄道史 中村建治著 イカロス出版 2005年

明治5年、品川～横浜間にはじめての機関車が走った。それが山手線のはじまりでもあった。



多摩の鉄道沿線古今御案内 今尾恵介著 けやき出版 2008年

新旧地形図や時刻表からその時代や成り立ちを読みとり、多摩地域の発展の歴史を綴る。

橋をかける

人物で知る日本の国土史 緒方英樹著 オーム社 2008年 空海、信玄…古代のお坊さんや戦国時代の武将も道や橋をつくっていた。

橋をかける :川と水とくらし 大竹三郎著 大日本図書 1985年

京都の上津屋橋は「流れ橋」という。大水がきて川の水がいっぱいになると必ず橋げたが流される構造になっている。

石橋 平野暉雄著 自由国民社 2009年

日本橋、眼鏡橋など日本全国に残っている石橋とその文化を写真で紹介。

現代の道 ~道路~

道路は進歩し、現代の自動車時代に適応した高速道路も発達してきました。道路の渋滞緩和のため地下にトンネルを建設したり、エンジンと電気モーター併用のハイブリッド車を開発したり、交通事故の問題など、くるま社会に対応していくための様々な動きがあります。

道のいま

ジャンクション 大山顕著 メディアファクトリー 2007年

高速道路が3方向以上連結する交通の要衝、ジャンクション。箱崎ジャンクションを下から眺めると、その光景はダイナミックでたくましい。

首都高山手トンネル 西澤丞著 求龍堂 2007年

首都高速中央環状線山手トンネル部の建設工事風景。2年以上に渡り撮影した、日常生活では見ることのできない現場の記録。

道路の技術

首都高をゆく 木野龍逸著 イカロス出版 2009年

道の上に道をつくる、海に橋をかける、橋から橋をつり下げる…進化を続ける東京の高速道路に迫る。



マンホールの博物誌 G&U技術研究センター編著 中川幸男監修 ダイヤモンド社 2005年

道路に無数にあるマンホールの向こうの世界をのぞいてみると…。地下空間に網の目のように張りめぐらされたライフラインに私たちの生活は支えられている。

アーチの力学 :橋をかけるくふう 板倉聖宣著 仮説社 2004年

がんじょうな橋をかける方法を考えるには、「動かない物体に働く力」を考える必要があるという。静力学、「力と反力」のはなし。

くるま社会

交通事故鑑定人 綾田成樹著 角川書店 2003年

交通事故に巻き込まれた被害者、加害者に依頼され、その原因究明を行う交通事故鑑定人。ノンフィクション。



ハイブリッド 木野龍逸著 文藝春秋 2009年

画期的なハイブリッド車。開発したトヨタの技術者たちのドキュメント。